

「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議（第9回）

開催記録

I 開催概要

日 時： 2023（令和5）年12月25日（月曜日）14時30分～16時30分

場 所： JR 東日本 現地会議室

出席者： 以下の通り

表 出・欠席者一覧

有識者	・松浦 晃一郎氏（第8代ユネスコ事務局長） ・木曾 功 氏（元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使） ・稲葉 信子 氏（国際機関 ICCROM 事務局長特別アドバイザー） ・中井 検裕 氏（東京工業大学 名誉教授） ・西村 幸夫 氏（國學院大學 観光まちづくり学部 学部長） ・本保 芳明 氏（国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所 代表）	座長 副座長
有識者 オブザーバー	・小野田 滋 氏（公益財団法人鉄道総合技術研究所 アドバイザー） 【欠席】老川 慶喜 氏（立教大学名誉教授） 【欠席】古関 潤一 氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センターテクニカルオフィサー） ・谷川 章雄 氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授）※オンライン出席	
オブザーバー	・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区街づくり支援部 ・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課 ・公益財団法人東日本鉄道文化財団 鉄道博物館 学芸部 ・JR 東日本コンサルタンツ株式会社	
事業者	・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部 ・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 品川開発推進部	
事務局	・京浜急行電鉄株式会社 ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門	
サポート	パシフィックコンサルタンツ株式会社	

当日配付資料：次第

- 資料1 [第8回（10/23）有識者検討会議議事録案]
- 資料2 [高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについて]
- 資料3 [5・6街区における高輪築堤跡の調査成果について（概報）]
- 資料4 [品川駅周辺エリア全体で目指すまちづくり]
[高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえた
まちづくりの取組み]
- 資料5 [品川駅街区地区について]
- 資料6 [高輪築堤の記憶・連続性を表現するランドスケープ計画]

II 議事要旨

1 開会

- 第9回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議の全体会を開会する。（事務局 JR）

2 第8回（10/23）有識者検討会議 議事録確認

- 修正指摘事項があれば本日会議終了後までに指摘してもらいたい。（座長）
← 指摘なし。（有識者一同）

3 高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについて

- 資料2について説明する。（事務局 JR）
- これまで出てきた議論が綺麗に整理されており、今後の議論をしっかりと見守りたい。（本保氏）
- 資料に対する意見はない。（稲葉氏）（西村氏）
- 前回の自身の発言に関して、「土木構造物としての価値はない」という部分が誤解を招きかねない表現であった。高輪築堤は文化財としての価値は十分あると思うが、構造物としての価値は議論の余地がある、と考えている。例えば墓は中の人が偉大だから文化財に指定されているのであり、墓石そのものが立派かどうかは主ではない。築堤や線路そのものが、文化財としての価値があるかどうか専門的な議論が必要だと思う。（副座長）
- この内容を基に議論を絞る方向で良いと思う。（小野田氏）
- 既にできている保存活用計画と、この資料の内容がどういう関係にあるか、整理したほうが良い。（谷川氏）
- 日本の近代史の中で新橋～横浜間の鉄道は非常に重みを持っており、当時の全体像がわかる展示をしっかりと作ってもらうことが重要である。（座長）
- 築堤の原型が残っていることを鑑み、高輪築堤の意義がしっかりと伝わる形で説明してほしい。（座長）
- 自身の発言で、資料に「記録保存調査の進捗を報告したい」とあるが、「発掘調査の進捗を報告したい」という意図である。（文化庁）

- 老川氏の発言の趣旨は、「現地保存が可能であれば最善」という前提での発言と思われ、「現地保存ができれば最善」という部分も赤字にした方が良くと思う。（文化庁）
- 現地保存すべき場所はあるのか。（座長）
 - ← 既に調査を行った1～4街区については、2街区に40 m、3街区に80 m、2箇所合計120 mで現地保存を行う。4街区の30mの信号機跡の部分に移築保存する。（JR）
 - その事実がしっかりと分かるように、資料2の「移築保存の意義」の次に「現地保存」の項目を設けて記載するべし。（座長）

4 5・6街区における高輪築堤跡の調査成果について

- 資料3について説明する。（港区）
- ポイントの一点目は、5・6街区では開業期の海側の石垣、開業期の盛土に加え、複線化期の盛土が確認され、築堤全体の遺構が確認されたということ。二点目は、築堤自体が南にいくにつれて東に曲がっていき、かつ幅が広がっていくということ。三点目は、開業期の海側の石垣が1～4街区よりも非常に高い位置で確認されたことから、遺存状況が非常に良いと判断できるだろうということ。（谷川氏）
 - ← 5・6街区に現地保存すべきものが残っていると考えるか。（座長）
 - 基本的に「現地保存ができるかどうか」というところから協議していく必要があると思う。（谷川氏）
- 高輪築堤調査・保存等検討委員会にて「今後の検討の出発点としては、現地保存が可能かどうかというところから」という見解を委員の皆様方から頂いた。どこかのタイミングで5・6街区全体の調査を行ったうえで、まちづくりの中で保存方法を検討していきたい。なお、現在の開発計画は、築堤の存在を想定していない段階から検討しているものである。（JR）
- 初めに築堤ができ、複線化され、拡幅していき、今の品川駅になったが、どこまでを文化財として評価するのか。（副座長）
 - ← 保存活用計画において、単線・複線・3線化と続き、その後海側の埋め立てが進み第7橋梁が消滅したとされる大正7年頃までを境とする整理がなされている。（JR）
- 5・6街区は今後の重要な検討課題である。（座長）

5 品川におけるまちづくりの考え方

- 資料4について説明する。（事務局 JR）
- 資料5について説明する。（事務局京急）
- 品川地区は「国家戦略特別区域」「都市再生緊急整備地域」の両方に指定されているが、この2つの違いは何か。（座長）
 - ← 「都市再生緊急整備地域」は民間事業を対象としてスムーズに都市の再生を行うための制度であり、「国家戦略特別区域」は、それを日本の国家戦略に資するプロジェクトとするために内閣総理大臣から認定を受け事業の意味づけを深めるものとなる。JRも京急も両方の体系を用いている。（JR）

→ 認定については根拠法と担当窓口、実務としては事業者側なのか東京都の権限がどこまで及ぶのかを整理するとわかりやすい。（稲葉氏）

← 整理して資料として取りまとめたい。（JR）

- 5・6街区において単に商業ビルを建てるということではなく、KDDI との連携でデータ分析による新しいサービスの検討、シンガポール国立大学との連携によるインキュベーション施設の設置、東京大学との産学協創協定による健康問題への取組みなど、いずれも印象的なもので素晴らしい。こういった国家戦略的な観点で日本の社会において意味のある機能を持たせていくことは重要であり、開発と文化財の保護をいかに両立させるかを考えていくために、さらに具体的な計画を提示して欲しい。（副座長）
- 品川の開発では防災など公益性の高い機能を都市計画として考えているようなので安心している。ここに歴史的に意義深い鉄道があったことを偲ばせるデザインが重要なものとなるだろう。（副座長）
- 5・6街区は発掘調査の調査状況を踏まえると、築堤の場所が確定してきているため、1～4街区と異なって築堤があることを踏まえた基本計画ができるはずである。開発計画と鉄道を継承するデザインは、外構だけではなく建物内の貫通的なスペースもさらにクリエイティブに検討してほしい。6街区の形状と、中に通っている築堤の線形から解決策は難しいと思うが、いかにデザインで解決するか努力することで良いものになるだろうと期待している。（西村氏）
- プラネタリーヘルスとは、地球環境と人間の健康を両方から捉えた新しい概念であり、これに東京大学が力を入れることは素晴らしい。日本でもっと力を入れて取り組んでいくべき概念である。（座長）
- この先5・6街区の方針が決まった後に保存側の方々から説明を求められることが想定される。これに対してこれまでの取組み（丁寧に記録保存調査を実施したこと・現地保存のため建物計画を変更したこと）の説明だけで事業者としての目的が説明しきれるかどうか疑問である。国家戦略に相応しい将来の計画と歴史を継承する保存計画とのシナジーを図る観点で、それらが十分に表現されている資料が必要になる。（稲葉氏）

6 高輪築堤の記憶・連続性を表現するランドスケープ計画

- 資料6について説明する。（事務局 JR）
- 築堤は海側に傾斜しているのだから海側は斜め、山側は垂直という石垣の積み方にこだわってもらいたい。（西村氏）
- 線路の上に物が置かれるのは違和感があり、可能な限りなくしてもらいたい。（西村氏）
- ボーダーの幅について、この場所における物語として 1067mm のナローゲージとすることが非常に重要であると考えている。日本初の鉄道にナローゲージを採用し、現代の鉄道に至る歴史を様々な場所で物語を語れるようにすることが歴史を繋ぐということで重要である。そのようなこだわりをデザイナーに伝えて検討してもらいたい。（西村氏）
 - ← ボーダーが何本も引かれていることが重要なのかどうか、これが何を意味するのか、良く分からない。重要なことは線路を目立たせるデザインではないか。（稲葉氏）
- 線が多くて何が何だかよくわからないデザイン、という感想である。（本保氏）

- 石垣を想起させるために石を用いるとあるが、来た人がそれを見て当時の石垣と思っていたか疑問であり、デザイナーにもう一工夫考えてもらいたい。（稲葉氏）
- 発掘された石を転用しても、説明がないとそれが何かなかなか理解されない点が難しい。見た人に伝わるような工夫が必要である。（谷川氏）
- AR のゴーグルは、あまり使い勝手の良いものではなく、公共空間での活用は難しいと思うので、別の方法を検討してもらいたい。（稲葉氏）
- AR で何を見せるかが問題であり、例えば4街区の弧を描く鉄道らしい風景や、発掘現場の状況なども AR で再現して見られるようにしてもらえると良いと思う。（谷川氏）
- 展示や説明は、AR だけではなく他のソフトもうまく組み合わせて、現場でも対応ができる工夫をしてもらいたい。（本保氏）
- 有益な意見を頂いているので、事務局で意見の反映を検討してもらいたい。（座長）

7 その他

- 今後の進め方や、次回の主な議題は何か。（座長）
- 本日頂いたご意見を踏まえて、まちづくりの考え方とランドスケープを深度化していき、改めて提示したい。（事務局 JR）
- まちづくりと公共性の検討や、高輪築堤の価値を理解したうえでのまちづくりのあり方としてどこまで取りまとめるか、今後数回の検討会議の議題と思っている。その中で今後の調査や5・6街区のまちづくりの具体的な情報を提示していければと思う。ランドスケープについては頂いたご意見を踏まえて次回また提示する。（JR）
- その他意見や追加議題がなければ、本日は閉会とする。（座長）

8 閉会

- 次回第10回は3月12日14時30分～16時30分を予定し、詳細は後日連絡する。（事務局 JR）
- 本日は終了する。（事務局 JR）

要旨以上

III 記録

1 開会

- [事務局 JR] ただいまより、第9回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議を開会する。
- [事務局 JR] 中井氏が15時頃より出席となる。オブザーバーの谷川氏がオンライン出席となり、老川氏・古関氏は欠席となる。
- [事務局 JR] 配付資料の確認を行う。なお、資料3については本日の会議終了後に回収するため、机上に残して退場いただきたい。資料の欠損があれば申し出いただきたい。
- [事務局 JR] 本日の次第を説明する。
- [事務局 JR] ここからは座長に進行をお願いする。

2 第8回（10/23）有識者検討会議 議事録確認

- [座長] 毎回しっかりとした議事録を作成いただき、感謝する。各委員で事前に修正の指摘をしていると思うが、最終として本日会議終了までにご指摘いただきたい。

3 高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについて

- [事務局 JR] 資料2について説明する。
- [座長] 今までの議論を踏まえて作成いただき感謝する。非常に重要な資料となるので委員のご意見を伺いたい。
- [本保氏] よくまとまっていて、これまで出てきた議論が綺麗に整理されている。これを活かして、まちづくりも含め整理を進めていると思うが、しっかりと見守っていききたい。
- [稲葉氏] この資料については、特に意見はない。
- [西村氏] この資料については、特に意見はない。
- [副座長] 高輪築堤の価値のあり方の部分で、前回の私の発言内容が誤解をまねきかねない表現になっていた。「土木構造物として価値はない」という部分は、そこまで言い切っていない。文化財としての価値は十分あると思うが、構造物としての価値は別のものだと考えている。史跡でよくあるのはお墓である。例えば歴史的な影響がある偉人の墓などであるが、それはその人が偉大だから史跡になっているのであり、墓石そのものが立派かどうかは主ではない。築堤そのものが文化財としてどのぐらいの価値があるのか、専門的な議論が必要だと思う。それは線路も同じである。構造物としてきちんと残す必要があるなら残すべきだが、そうでなければ文化財として評価して対応するということも可

能ではないかと思う。その部分が議論の余地があるという意見である。今日の資料のまとめ方に感謝する。

[小野田氏] この資料の内容を基に議論を絞る方向で良いと思う。

[谷川氏] この資料に関しては特段言うことはない。但し、保存活用計画が既にできているので、それとこの資料の内容がどういう関係にあるかを整理した方が良い。

[座長] 私からは総論として二点ある。一点は日本の近代史の中で新橋～横浜間の鉄道は非常に重みを持っており、当時の全体像がわかる展示をしっかりと作ってほしい。もう一点は、開業当時のものとして唯一築堤の原型が残っているということで、保存の際は高輪築堤の意義がしっかりと伝わる形で説明をしてほしい。さらにもう一点加えるならば、表題にある通り、文化財の保存を踏まえた新しいまちづくり、という点が重要である。

[文化庁] 私の発言で、「これまでと今後の取組み」の「今後の取組み」の部分に、「東京都や港区と相談し、記録保存調査の進捗を報告したい」とあるが、「発掘調査の進捗を報告したい」と言ったつもりである。もうひとつ、老川氏の発言だが、「高輪築堤の継承のあり方」の「移築保存の意義」の部分の趣旨は、「現地保存が可能であれば最善」という前提でそういう発言をしていたと思われるので、老川氏に確認してもらいたい。例えば、「現地保存ができれば最善」という部分も赤字にした方が良いのではないかと思う。

[座長] 事務局に聞くが、現地保存すべき場所はあるのか。

[JR] 既に調査を行っている1～4街区については、2街区に40 m、3街区に80 m、2箇所合わせて120 mの現地保存を行う。それ以外に4街区の30mの信号機跡の部分に移築保存する。

[座長] 事業者のコメントとして、現地保存と移築保存を行っている事実がわかるように資料に記載しておいてもらいたい。老川氏の発言だけ見ると現地保存を行っていないかのように誤解される。現地保存ができる場所がそれだけあるという今の説明を資料2に記載しておいた方が良い。「移築保存の意義」の次に現地保存の項目を設けて記載してもらいたい。

[座長] 港区から意見はあるか。

[港区] 特に意見はない。

[座長] 他になければ次の議題に移る。

4 5・6街区における高輪築堤跡の調査成果について（概報）

[港区] 資料3について説明する。

[座長] 谷川氏から補足説明はあるか。

[谷川氏] ポイントは三点ある。一点目は、5・6街区では開業期の海側の石垣、開業期の盛土に加え、複線化期の盛土が確認され、築堤全体の遺構が

確認されたということである。二点目は、築堤自体が南にいくにつれて東に曲がっていき、かつ幅が広がっていくような様相が見えたということである。三点目は、開業期の海側の石垣が1～4街区に比べると非常に高い位置で確認されていることから、遺存状況が非常に良いと判断できるだろうということである。

[座長] そうすると5・6街区に現地保存すべきものが残っていると考えるか。

[谷川氏] 基本的に「現地保存ができるかどうか」というところから協議していく必要があるだろうと思う。

[座長] 現段階で JR からの意見はあるか。

[JR] 高輪築堤調査・保存等検討委員会でも同様の調査結果報告の取りまとめを受け、「今後の検討の出発点としては、現地保存が可能かどうかというところから」という見解を委員の皆様方から頂いた。どこかのタイミングで5・6街区全体の調査を行った方が良いと考えており、委員の皆様方からもご指摘を頂いている。現在は現場が更地ではないので難しいが、どこかのタイミングでしっかりと全体の調査を行い、その上で保存方法を検討していきたいと考えている。なお、現在の開発計画は、築堤の存在を想定していない段階から検討しているものである。今後、調査の状況を把握し、委員の皆様方にもご意見を頂きながら、何ができるかを考えていきたい。高輪築堤の意義とまちづくりをいかに両立できるかという観点で、今後とも真摯に取り組んでいきたい。

[副座長] 初めに築堤ができ、複線化され、拡幅していき、今の品川駅になったが、どの時期までを文化財として評価するのか教えてもらいたい。鉄道史としての意義はあると思うが、どこかで線を引かないと際限のない話になる。どう考えているか聞きたい。

[JR] 保存活用計画において、単線、複線、3線化され、その後海側の埋め立てが進み、第7橋梁が消滅したのが大正7年頃とされている。明治5年頃～大正7年頃までが境になると整理されている。

[座長] 5・6街区については、非常に重要なテーマであり、今後の重要な検討課題としていきたい。

[座長] 他になれば次の議題に移る。

5 品川におけるまちづくりの考え方

[事務局 JR] 資料4について説明する。品川駅周辺エリア全体で目指すまちづくりの考え方と、高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりの取組みについて説明させていただく。

[事務局京急] 資料5について説明する。取組みの状況を説明する。当会議にて都市計画の手続きと文化財調査の分離を図ることへのご助言を頂き、現在都市計画の手続きと文化財の調査を並行して実施している。駅街区では複数の工事が絡み合っているため、文化財の調査は長期的にわたる。現時点で文化財的価値と比較検討できる状況にはない。今後、ご助言を頂ける状況にしていきたい。

- [座長] 考え方というか、用語の確認であるが、JRの説明では品川地区は「国家戦略特別区域」に指定されているという話であった。これは実際に東京都が進めるものか、それとも国のどこかの機関が進めるものか。一方で京急の説明では「都市再生緊急整備地域」という説明であった。この2つの違いは何か。重点がそれぞれ異なるのか。どのように連携するのか。関係を教えてもらいたい。
- [JR] 都市計画行政の皆様の方が適格かと思うが、事業者から説明する。「国家戦略特別区域」と「都市再生緊急整備地域」は法体系が違う。JRの事業も京急の事業も両方の体系を用いている。片方だけを用いることもできるが、この場所については両方用いている。「都市再生緊急整備地域」は、民間事業を対象としてその活力を引き出し、スムーズに都市の再生を行うための制度であり、「国家戦略特別区域」は、それを日本の国際競争力向上に資するプロジェクトとするために内閣総理大臣から認定いただき、事業の意味づけを深めるものとなる。
- [座長] 「国家戦略特別区域」の所管はどこになるのか。
- [JR] 「都市再生緊急整備地域」も「国家戦略特別区域」も内閣府となる。具体的には、地元との関係が深い都市計画となるので、東京都と港区にもご指導を頂きながら進めていく。
- [稲葉氏] 認定については根拠法と担当窓口、実務については事業者側なのか東京都の権限がどこまで及ぶのかを整理してもらえるとわかりやすい。
- [JR] 整理して資料として取りまとめたい。
- [副座長] 5・6街区をどう考えているかという点が重要である。いずれもJRよりプレス発表されている件名であるが、KDDIとの連携でデータ分析による新しいサービスの検討、シンガポール国立大学との連携によるインキュベーション施設の設置、東京大学との産学協創協定による健康問題への新たな取組みについて、大変印象的なもので素晴らしいと思う。これからの都市、東京だけではなく日本が将来どうなっていくのかを考える際に、こういった拠点を作っていかないと難しいだろう。品川の再開発が単に商業ビルを建てるということだけではなく、こういった国家戦略的な観点で、日本の社会において意味のある機能を持たせていくことは重要だと思っている。開発と文化財の保護をどうやって両立させるか、どう考えていくのかについて、さらに具体的な計画を提示して欲しいと思っている。文化財保護は公益の際たるものであり、文化財の保存を通じて国民がこれを楽しむことができる。一方で開発についても、開発がなければ日本の社会そのものが持続できないということになる。これらをどこで、どういう考えで両立を図っていくかが、この有識者検討会議が直面している難しい問題である。これに対して少なくとも品川の開発で安心しているところは、都市にとって非常に重要な防災などの公益性の高い機能を都市計画の中に持たせていることである。ここに歴史的に意義深い鉄道があったということのを偲ばせるデザインが重要なものとなるだろう。プロムナードにおける線路跡のデザインは以前よりも良くなった印象がある。以前見たデザイン案は、築堤を意識することができなかった。

[西村氏] 4街区の外構は次の議題なのでそこでコメントする。全体的には大きく前進していると感じた。

[西村氏] 5・6街区について、現段階では基本構想程度のものがある状況と思う。発掘調査の報告を踏まえると5・6街区で築堤の場所がほぼ確定してきている。つまり1～4街区とは状況が異なり、計画を立てる段階で地下に何があるかが分かってきているので、築堤があることを踏まえた基本計画ができるはずである。開発計画や鉄道を継承するデザインは、もっと様々な工夫ができるはずである。外構だけではなく建物内の貫通的なスペースもクリエイティブに検討してほしい。特に6街区の形と、中に通っている築堤の線形から解決策は難しいと思うが、それをいかにデザインで解決するか努力することで良いものになるだろうと期待している。

[座長] 東京大学との取組みであるプラネタリーヘルスという言葉について、文字通り取ると「地球環境の健康」となるが、地球環境と人間の健康の両方から捉えた概念である。地球環境の保全は人間の健康に大きく関係してくるが、この新しい概念に対して東京大学が力を入れて取り組んでいくことは素晴らしいことと思う。日本においてもっと力を入れて取り組んでいくべき概念である。

[稲葉氏] 特区などの様々な認定を受けるために色々な工夫をされてきたことや、これらが日本や東京にとって大変重要な計画であるかはよく分かる。但しこの先、5・6街区の方針が決まった後に、特に保存側の方々から説明を求められることが想定される。それに対して、これまでの取組み（丁寧に記録保存調査を実施したこと・現地保存のための建物計画を変更したこと）の説明だけで事業者としての目的が説明しきれるかどうか疑問である。これだけではやや淡々としていて、さらに説得力を持たせる工夫ができるのではないかと。国家戦略に相応しい将来の計画と、歴史を継承する保存計画とのシナジーを図る観点で、それらが十分に表現されている資料が必要になってくるのではないかとと思う。

[座長] 他になれば次の議題に移る。

6 高輪築堤の記憶・連続性を表現するランドスケープ計画

[事務局 JR] 資料6について説明する。

[西村氏] 前回に比べて格段に良くなった。ただ、もう少しこだわってもらいたい点がある。築堤は海側に傾斜しているのだから、傾斜した石垣は海側にしてもらいたい。

[事務局 JR] 基本的なルールとして海側は斜め、山側は垂直という積み方を考えている。建物の入口部分のみ第7橋梁をイメージした積み方をしているが、ここだけ向きが逆になっている。

[西村氏] 海側は斜め、山側は垂直という積み方がデザインの基本となることにこだわってもらいたい。もう一点は、線路を復元した箇所につかかっている石や木があるイメージになっているが、線路の上に物が置かれるのは違和感があるので、可能な限りこれはなくしてもらいたい。

さらには、ボーダーの幅について、この場所における物語として1067mmのナローゲージとすることが非常に重要であるとする。迅速な鉄道敷設が理由だと思うが、日本初の鉄道にナローゲージを採用し、その後高速化の障壁となり、スタンダードゲージの新幹線が生まれたという歴史を様々な場所で語れるようにすることが、歴史を繋ぐということで重要である。そういうこだわりをデザイナーに伝えて検討してもらいたい。

[稲葉氏] こだわるところについて、現代デザイナーの方と歴史にこだわったデザインとの関係が非常に難しいと考える。ボーダーについては、これほど何本も引かれていることが重要なのかどうか、これが何を意味するのかよく分からない。重要なことは線路を目立たせるデザインではないか。また、石垣を想起させるために石を用いたとあるが、ただその石を使っているだけ、という印象しかない。来た人がその石の使われ方を見て当時の石垣と思っていたかどうか重要であるが、かなり難しい。そのあたりについても現在デザイナーの方にもう一工夫考えてもらいたい。本当にこれが歴史を表現する綺麗なデザインになっているかどうか重要である。また、ARのゴーグルは、あまり使い勝手の良いものではなく、公共空間で活用するという事はかなり難しいと思うので、別の方法を検討してもらいたい。

[谷川氏] 稲葉氏に同感である。遺跡から発掘された石を床石等に転用しても、説明がないとそれが何かなかなか理解されないという点が難しい。見た人に伝わるような工夫が必要である。ARは考古学の遺跡でも使われるが、ここでは何を見せるかが問題である。例えば、4街区の弧を描く鉄道らしい風景や、コロナ禍で十分に見学会ができなかった発掘現場の状況などもARで再現して見られるようにしてもらえると良いと思う。

[座長] 有益な意見を頂いているので、事務局で意見の反映を検討してもらいたい。

[本保氏] デザインについては、線が多くて何が何だかよくわからないという感想である。ランドスケープには、それなりに限界があるだろうと思うので、展示や説明については、ARだけではなく、他のソフトも上手く組み合わせて現場でも対応ができる工夫をしてもらいたい。

[座長] 他になれば次の議題に移る。

7 その他

[座長] 今後の予定について説明してもらいたい。

[事務局 JR] 今後の進め方であるが、本日頂いたご意見を踏まえて、まちづくりの考え方とランドスケープの計画を深度化していき、改めて提示していきたい。次回は第10回となり、2024年3月12日14時30分～16時30分を予定する。

[座長] 次の主な議題についても説明頂きたい。

[JR] 5・6街区の計画に向けて調査報告や、まちづくりの考え方とデザインをどのようにすり合わせていくのか等のご議論に感謝する。本日の議論を踏まえて、まちづくりと公共性の検討や、高輪築堤の価値を理解したうえでのまちづくりのあり方としてどこまで取りまとめていくのかが、今後数回の検討会議の議題と思っている。資料2については、本日の意見も踏まえて一度次回で取りまとめを行いたいと考えている。その中で今後の調査や5・6街区のまちづくりの具体的な情報を提示していければと思っている。ランドスケープについては、本日頂いたご意見を踏まえて次回また提示したい。

[座長] その他意見や追加議題がなければ閉会とする。

8 閉会

[事務局 JR] 頂いた意見は今後の検討に活かしていく。次回の第10回は2024年3月12日14時30分～16時30分を予定し、詳細は後日連絡する。

[事務局 JR] 本日は終了とする。本日はありがとうございました。

以 上